

外科で診るおなかの症状

はじめに

当院の外科は70床の外科病床を有し、年間約1,400件の手術を行っています。胃や大腸、肝臓・胆のう・膵臓に加え乳腺まで幅広い疾患に対応するだけでなく、急な腹痛など腹部救急疾患にも24時間体制で対応しています。

近年は、体への負担が少ない腹腔鏡・胸腔鏡による低侵襲手術を積極的に導入しており、その割合は年々高まっています。小さな傷で済むため痛みや出血が少なく、回復が早く早期退院につながるのが大きな特長です。

消化器内視鏡検査は年間約1万件施行し、治療を目的とした早期の食道・胃・大腸がんに対する内視鏡治療（粘膜下層切開剥離法（ESD））、胆管結石に対する内視鏡治療（内視鏡を用いた総胆管結石採石術（EST／EPBD）や胆道ドレナージ術）、膵臓／胆道疾患に対する内視鏡検査（超音波内視鏡検査（EUS）および超音波内視鏡下組織生検検査

（EUS-FNA）や内視鏡治療（内視鏡的胆道ステント留置術、内視鏡的嚢胞ドレナージ術）など、幅広く対応しています。これらの検査・治療は消化器内科と協働して行っています。

さらに、当科は「日本肝胆膵外科学会高度技能修練施設」に認定されており、高難度の肝胆膵手術も多数行っています。また、「日本腹部救急医学会認定施設」として虫垂炎や腸閉塞など急性腹症を迅速に対応しています。他にも、「日本大腸肛門病学会関連施設」「胃癌学会認定施設B」などの様々な認定を受けており、幅広い消化器疾患に対応できる体制を整えています。

地域の皆さまの安心に貢献できるよう、専門医による手術前から退院後まで切れ目のないサポート体制で、安全かつ質の高い医療を提供してまいります。

外科
主任診療科長
(兼)消化器病センター長

吉川 貴久 医師

よしかわ・たかひさ

今年度4月より外科 主任診療科長(兼)消化器病センター長を拝命しました吉川貴久と申します。これまで医師になってから20年以上消化器外科を専門として勤務してきました。微力ながら地域の患者さんや医療機関の皆さまに貢献できますよう精一杯努めてまいります。何かと至らぬ点もあるかと思いますが、皆さまのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



気になるおなかの症状

胃潰瘍・十二指腸潰瘍

みぞおちの痛みが典型的ですが、吐き気や背部痛、食欲不振などの症状が出ることもあります。黒色便が見られることもあります。

食道がん

食べ物のつかえ感が典型的な症状です。教科書的には「熱い飲み物がしみる感じ」がするなどともいわれています。そのほか、背部痛、胸痛、体重減少、などの症状も比較的良好に見られます。

胃がん

胃潰瘍や十二指腸潰瘍と似たような症状が現れますが、上腹部腫瘍をきっかけに見つかることもあります。

腸閉塞

腹部膨満感、腹痛、嘔吐などが代表的な症状になります。

虫垂炎

右下腹部痛が代表的な症状になりますが、教科書的にはみぞおちの痛みで始まり、右下腹部に移動する痛みが典型的です。しかし、虫垂の場所には個人差があり、痛みが左側に強い場合などもあります。

大腸がん

下痢や便秘などの排便習慣の変化全般が典型的な症状になります。ほかに便柱狭小化や血便、腹痛などの症状もよく見られます。健診での便潜血検査をきっかけに病気が見つかることもあります。

外科が担当する臓器は頸部の食道から肛門までの消化器や鼠経ヘルニアなど多彩な臓器になり、それぞれの疾患の症状も様々なものになります。

消化器疾患の検査にはさまざまなものがありますが、最初に行う検査としては内視鏡検査（胃カメラ、大腸カメラ）とCT検査が重要な検査になります。そのほか、必要に応じて超音波、MRI、PETやその他特殊な検査も検討することになります。